

平成19年度横浜市保土ヶ谷区生活支援センター事業報告書

精神障害者の社会復帰、自立及び社会参加の促進を図ることを目的に、地域で生活する精神障害者の日常生活の支援、相談、自立支援、交流事業活動等の事業を行う。

ア. 施設概要

- (ア) 設置主体 横浜市
- (イ) 運営主体 社会福祉法人 横浜市社会事業協会
- (ウ) 所在地 〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町5-1-1 かるがも4階
Tel 045-333-6111 Fax 045-340-2000
e-mail:hodogaya-s.c.m.h@smile.ocn.ne.jp
HP:<http://www12.ocn.ne.jp/~hodo-s.c/>
- (エ) 建物 鉄筋コンクリート造 4階建の4階部分
- (オ) 床面積 572.14㎡
- (カ) 開所年月日 平成15年2月2日
- (キ) 休館日 原則第4月曜日
- (ク) 開館時間 午前9時から午後9時
- (ケ) 利用料金 登録や集会室利用等は無料
・夕食サービス～400円（土曜日のみ500円）
・入浴サービス～100円
・洗濯サービス～100円
・インターネットサービス～10円／10分
- (コ) 職員配置 生活支援センター：9名（常勤職員4名、非常勤職員3名、常勤アルバイト2名）
自立生活アシスタント事業：2名（常勤職員1名、常勤アルバイト職員1名）
嘱託医：2名 調理アルバイト：10名

イ. 平成19年度重点目標

- (ア) 地域活動支援センターとしての基礎作り
保土ヶ谷区地域活動ホーム「ゆめ」の依頼により、必要に応じ地域で生活する精神障害者の相談とその支援を行った。
- (イ) 訪問活動の強化
安定した地域生活を支えるため、必要に応じてご家族、関係機関と連携調整しながら自宅、地域作業所、通院先等を訪問し居宅生活をサポートした。
- (ウ) ボランティアの育成

保土ヶ谷区福祉保健センター、保土ヶ谷区社会福祉協議会と共催しボランティア講座を開催し育成に努めた。

(エ) 家族支援

保土ヶ谷区家族会「たちばな会」への会場の提供、家族会定例会への出席等で情報交換を実施し、相互理解を深めた。また、保土ヶ谷区福祉保健センターと共催で家族教室を実施し、継続支援を念頭に活動を行っている。

(オ) 保土ヶ谷区内関係団体との協働

ウ、事業概要地域で精神障害者を支えている関係者・団体による「保土ヶ谷区支援ネットワークの会」と協働し精神保健福祉の向上に寄与した。また、多くのスタッフが地域作業所等の運営委員として地域との関係強化に努めている。

(カ) 学生への啓発

地域の小中高生の福祉体験学習や、見学などの受入を行った。

(ア) 日常生活相談

住居や就労、公的制度の利用に関する事など、日常生活に関する相談に対して電話や面接により利用者のニーズを明確にして、適切に対応した。地域で生活する利用者に心許せる場・安心して相談できる場として機能した。

(イ) 食事・入浴・洗濯サービス

毎日の夕食や入浴、洗濯サービスを提供することで安定した生活のリズムを作り、また、精神障害者相互の交流の機会となった。

(ウ) 生活情報の提供

月1回発行のセンター便り及び、掲示板の有効活用により利用者に情報発信を行った。利用者のみならず、市内各福祉保健センター、作業所、グループホーム、病院やクリニック、他区・他市生活支援センター、関係各団体、関係機関、学校関係者等に広く郵送及びメールにて配布し、一人でも多くの方に利用してもらえよう、生活支援センターのPRに努めた。
また、ホームページも常時更新を行い、リアルタイムでの情報発信に努めが、現在PCの不調により更新を中断しておりリニューアルを含め対応中である。ホームページを通じての当事者やご家族の来館、お問い合わせも多く、そのニーズの高さを実感している。また、情報収集を目的にインターネットサービス利用者も多い。

(エ) 自主グループ活動の場の提供

将棋サークル、絵画サークル、パン・ド・カナール（パン作り）・パソコンサロン等の趣味サークルを開催し、交流促進に努めた。

(オ) 地域交流

各種スポーツ大会への参加、地域の団体との交流を積極的に展開した。また「かるがも」建物内の全組織で開催した“かるがもフェスティバル”は多くの障害当事者と地域住民との交流の場となった。

(カ) 自主事業

地域で活躍している障害当事者の方を講師としてお招きし、日常の生活体験等を利用者に伝え、利用者の地域生活の意欲促進の一助とした。

(キ) 家族支援

障害当事者のみならず、疲弊したり問題を抱えた家族への支援を視野に入れ家族の相談窓口としての機能を果たした。家族会の役員開催時の会場提供、家族定例会へのセンター職員の出席・意見交換だけでなく、家族会未加入の家族や入会后間もない家族を対象とした家族教室を区福祉保健センターとの共催で開催し、多くの家族が参加された。

(ク) 利用者の声の反映

毎月1回実施しているセンター職員と利用者とのミーティングや、「ご意見ボックス」を通じて出された利用者からの意見を積極的に受入れ、サービス向上を図るなどセンターの運営に生かした。

(ケ) 苦情解決

利用者からの苦情について、毎月1回、第三者委員と苦情解決責任者（所長）及び関連職員が連携し解決にあたっている。

（第3者委員）石渡和実・東洋英和女学院大学教授

武津美樹・神奈川県精神保健福祉士協会副会長

(コ) イベント等

前年度に続き、今年度も様々なイベントを実施した。実施状況は以下のとおり。

月別行事実施状況

月	行事
4	花見（帷子川沿い散策）
5	ボーリング（ハマボール）
6	自立支援法勉強会 ・ カラオケ
7	お茶会（市立桜ヶ丘高校茶道部の参加による。）
8	センター夏祭り
9	昼食会（流しそうめん アトラクション 南京玉すだれ） 精神医療サバイバー 広田さんを囲む会 かるがもフェスティバル共催 ・ 卓球大会交流参加
10	昼食会 市立桜ヶ丘高校文化祭見学

	バスハイク（箱根温泉 天恵）
1 1	音楽会（フルートアンサンブルユーユー演奏会） 西ブロック将棋大会参加
1 2	クリスマス会（保土ヶ谷支援ネットワーク主催）
1	初詣（明神神社参拝）新年会もちつき（おしるこを食べよう）
2	節分（橘神社 節分祭参加） カラオケbox
3	ひな祭り お茶会 バスハイク（湯ーとぴあかなみ&沼津港での食事）

その他、サークル活動等

メンバーミーティング 将棋サークル 絵画サークル 文芸サークル

パソコンサロン ソフトボール アロマの日 シネマデイ プラモの会 その他適宜状況に応じ毎月実施している

エ 新規事業 平成19年8月開始

（ア）精神障害者自立生活アシスタント派遣事業

横浜市からの委託を受け、生活支援センターが持っている専門性を生かして、地域で単身等で生活されている精神障害者に、その特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるための自立を支援する「自立生活アシスタント派遣事業」を開始した。

区福祉センターや病院などの各関係機関と連携し、精神に障害のある方が地域で安心して生活できるよう、当事者のみならず家族を含めた支援を行った。

平成19年度
横浜市精神障害者生活支援センター指定管理料決算書

施設名:横浜市保土ヶ谷区生活支援センター
運営法人:社会福祉法人 横浜市社会事業協会

(単位:円)

項目	予算額	決算額	差引増減	備 考
人件費	40,765,000	35,644,701	5,120,299	
施設管理費	4,510,000	5,846,834	-1,336,834	
水道光熱費	2,519,000	3,772,786	-1,253,786	電気・水道・ガス代
建物管理委託料	2,111,000	2,192,718	-81,718	建物管理・警備保障・清掃委託等
入浴・洗濯サービス等実費 徴収額光熱費充当分	-120,000	-118,670	-1,330	入浴・92700円、洗濯・23900円 ネット・2070円
事業運営費	3,378,000	3,579,179	-201,179	平成20年度繰り越し金
旅費交通費	120,000	149,320	-29,320	
一般物品費	739,000	728,814	10,186	事務用品・新聞等
印刷製本費	200,000	154,113	45,887	
修繕費	100,000	113,190	-13,190	
役務費	371,000	506,213	-135,213	切手代、振込手数料
借料損費	410,000	517,440	-107,440	
備品費	850,000	878,374	-28,374	
施設賠償責任保険	188,000	187,000	1,000	コピー機リース、保守料等
雑費	400,000	344,715	55,285	
				H19年度戻入金 (H18年度繰越金1065541円含む)
合計	48,653,000	45,070,714	3,582,286	4,647,827